

## 第5学年3組 国語科学習指導案

場 所 5年3組教室

1. 単元名 要旨をとらえよう  
教材名 「サクラソウとトラマルハナバチ」(鷺谷いづみ)  
「新聞記事」(朝日新聞)
2. 単元目標 文章の構成から要旨をとらえる読み方を知るとともに、筆者の考えに興味をもち、自分の考えをもつ。
  - ・筆者の意見を主体的にとらえ、それに対する自分の考えを明確にしようとしている。(関)
  - ・文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。(読)
  - ・文章構成や文末表現などに着目して筆者の意見を押さえ、それに対する自分の考えをもっている。(読)
  - ・問題提起、問題の解明、まとめという文章構成を理解している。(言)

### 3. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫

#### (1) 単元と児童

「サクラソウとトラマルハナバチ」は、サクラソウの絶滅の危機という事象の裏に隠れているなぞを、明快に解き明かしており、文章を読むことにより、なぞを解明するおもしろさを実感できる教材である。本単元を、興味を持って読み進めながら要旨をとらえさせていき、さらにはそれについて自分の考えをもたせることをねらっている。

そのためには、まず、今までに学んできた「主語・述語の関係」「段落の意味」「段落のつながり」「指示語・接続詞の使い方」「文末表現」「文章構成のとらえ」などを活用して、要点がとらえられなければいけない。しかし、一人一人が身につけている力には差がある。

そこで、今までの学習をもう一度確認しながら教材文を読み、意見を交流する中で、読み取るためのポイントに一人一人が気づくようにしたい。

その後、自分達の力でもう一度要旨をとらえる活動を、新聞記事を使って行いたい。新聞記事から自分が興味を持った文章を読み、要旨に対する意見交流会を開きたい。今後の生活の中で、新聞記事や興味のある文章を読む時、相手の考えをそのまま受け入れるだけでなく、それに対する自分の考えを持つことは生きていくうえで必要な力と考える。

学級全体やグループ内での話し合いでは、友達の考えのよさに気づき、自分の考えを見直すことを大事にしていきたい。また、意見交流では、自分と友達の考えの同じところやちがうところに気づき、相手を理解しようとする態度を育てていきたい。

そこで、意欲を持ってこれらの活動を行うために次のような手立てを考えた。

#### (知的好奇心)

今まで「説明文を読む」ことによって学んできたことの確認、読み取りをするためのポイントの確認

「自分一人でも読み取りができそうだ」という思いを持たせられるように、読み取り方の手順をノートに書いたり、ポイントを書いた紙を掲示したりして、いつでも確

認をしながら学習を進めることができるようにする。

目的意識をもてる読み取り

「問題の答はどこに書いてあるか」「まとめり（意味段落）にわけよう」「筆者が伝えたいことは何か」「小学生の主張（単元最後の意見交流会）を開こう」など、読み取る目的を示す。

身近な文章を取り入れた学習

教科書教材や他の簡単な文章、新聞記事などで、読み取りの練習を繰り返す。新聞記事は、自分が興味のある内容の文章で読み取りができるようにしていく。

写真の資料

サクラソウとトラマルハナバチをイメージしながら読み進めていくことができるように、写真を用意する。

（関わり合い）

音読対話

すらすら読むことができなければ、読み取りもできない。そこで、毎日教材文を読む時間を、家庭学習でとるようにする。また授業の中で、意識をもって友達の読みを聞くことができるように、二人一組になり教科書を読む時間を設ける。読む方法としては、二人で音読し合い、間違えたところは線をひく。以前間違えたところを間違えないで読めたら線を消す。

グループ学習

各自の読み取りを交流する方法として、グループで交流する方法も随時取り入れたい。また、教科書教材で学んだ事を生かし、新聞記事の文章構成を考える段階では、同じ教材を読み合った子同士のグループで意見交流を行う。少人数の中でなら、意見も言い易いと思われる。また、友達の考えを聞き合い、自分の考えを見直す機会を持つこともできる。

友達の考えを問う発表の仕方

発表をする際に、言い切りの形で終わるのではなく、「どう思いますか」というように自分の考えに対し、ほかの人はどう考えるのか聞きたいという意識を持って発表ができるように促していく。

この単元を通し、説明文の読み取り方を理解できるようにすると共に、友達の考えや筆者の考えに対し、「自分の考えを持てる子」「肯定的・能動的に聞く・読むことができる子」にしたい。つまり、相手を肯定的に理解するための一つの活動としたい。

#### 4．指導計画（全10時間扱い）

第1次 「サクラソウとトラマルハナバチ」の要点をとらえる。（5）

- ・ 主語・述語や大事な文・言葉に着目し、形式段落の要点をまとめる。

第2次 「サクラソウとトラマルハナバチ」の要旨をとらえ、自分の考えを持つ。（2）

- ・ 文章構成を考える。…（本時）
- ・ 要旨をまとめ、筆者の考えに対する自分の考えをもつ。

第3次 新聞記事を読み、要旨をとらえる。（2）

- ・ 「サクラソウとトラマルハナバチ」で学習したことをもとに文章構成を考える。
- ・ 各自で要旨をまとめ、自分の考えをまとめる。

第4次 「小学生の主張」を開き、意見交流会を行う。（1）

- ・ 新聞記事の要旨と自分の考えを発表し、意見交流を行う。

## 5. 本時

### (1) 本時の目標

接続詞や要点・主語などをもとに、段落のつながりを考え、意味段落にわけるとする。

### (2) 本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ( 評 価 )
1. 教科書を二人一組で音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「はっきり正確に読むこと」「正しく聞くこと」をめあてとすることを確認する。</li> </ul>
2. 「はじめ・中(二つに分かれる)・おわり」の4つのまとまりにわけよう。  学習課題の確認をし、4つのまとまりにわけるとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続詞(教科書に印が付いている)・要点などから考えるように声をかける。</li> <li>・ 全体のつながりを一目で判断できるように、形式段落の要点を書いた紙を4つに分けるようにする。</li> <li>・ 自分の考えの根拠を書くようにする。</li> </ul>
3. 自分の考えたまとまりと理由を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで</li> <li>・ 全体の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言い切りの形で発表が終わらないように声をかけていく。</li> <li>・ 友達の考えと比べながら話し合いができるように、よい考えだと思う友達の名前を、ノートに書くようにする。</li> <li>・ 「まず」「次は」の言葉の意味を押さえる。</li> <li>・ 意味段落を教える。 接続詞や要点・主語などをもとに、意味段落に分ける。(読)</li> <li>接続詞や要点、主語などをもとに、段落のつながりを考えようとする。(関)</li> </ul>
4. 授業への意欲や活動についてふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動のよかった点を認める。</li> </ul>

### (3) 本時の視点

接続詞や要点・主語などをもとに、段落のつながりを考えているか。

友達の考えと比べながら、聞いているか。